

I 蚕糸業の概況

1 養蚕業の動向

平成 18 年度における養蚕業は、養蚕従事者の高齢化及び後継者不足による労働力事情等により、飼育中止や掃き立て規模を縮小する農家が増加したことから、養蚕農家数、掃立卵量及び収繭量とも前年に比べて大幅に減少した。

- (1) 養蚕農家数は 1,345 戸で、前年に比べて 246 戸（15%）減少した。
- (2) 桑栽培面積は 2,665ha、桑使用面積は 1,401ha で、前年に比べてそれぞれ 323ha（11%）、181ha（11%）減少した。
- (3) 飼育箱数は 14,912 箱で、前年に比べて 3,523 箱（19%）減少した。
- (4) 箱当たり収繭量は 33.9 kg で、前年に比べてやや減少した。
- (5) 収繭量は 626t で、前年に比べて 121 トン（19%）減少した。
- (6) 1 戸当たり飼育箱数は 11.1 箱、1 戸当たり収繭量は 375 kg で、ともに前年よりやや減少した。

（資料「平成 18 年度蚕業に関する参考統計」生産局特産振興課調べ）

2 製糸業の動向

平成 18 年度における製糸業の動向は、原料繭の減少、生糸価格の低迷により製糸設備の運転率及び生糸生産量は前年に引き続き減少した。

- (1) 器械製糸工場数（18 年 12 月末の運転工場数）は、2 工場で前年同。
- (2) 製糸設備台（釜）数（18 年 12 月末）は 112 台、1 日平均運転台（釜）数は 92 台で、運転率は 82.1% となっており、前年に比べて製糸設備台（釜）数は 12 台（9.7%）減少、1 日平均運転台（釜）数は前年同であった。
- (3) 生糸生産量（18 生糸年度）は 1,805 俵で、前年に比べて 219 俵（10.8%）減少した。また、生糸の織度別割合は 18d 以下が 0.1%、21d が 14.5%、27d が 26.6%、31d が 31.0%、その他が 27.8% となった。
- (4) 製糸工場の原料繭需給（18 生糸年度）は、受入数量が 562 トンと前年比 33.0% 減少し、消費数量も 599 トンと前年比 11.0% 減少し、期末在庫数量は 349 トンと前年比 11% の減少となった。

3 生糸の国内需給及び価格の動向

18 生糸年度の生糸需給についてみると、生産は 1,805 俵と前年比 10.8% 減少し、機構における外国産生糸の買入れ及び売戻しは、国内の絹製品の需要減少などによって、13,394 俵（実需者輸入分 13,394 俵、一般者輸入分なし）と前年に比べて 49.2% の減少となった。

国産生糸の市場価格は、かつては輸入生糸価格を上回って推移してきたが、そのシェアの激減による価格形成力の喪失、品質格差の縮小等により、近年、主産国での生産状況・海外市況、仕手筋の介入等の要因により変動している。18 生糸年度は、4,000 円弱でスタートしたが、その後は、概ね 3,000 円前半で推移した。